

令和2年度浜松市社会福祉審議会

第2回高齢者福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和2年8月28日（金）午後3時00分から午後3時55分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第5委員会室
- 3 出席状況 委員（10名）
石川 恵一（浜松市自治会連合会 理事）
渥美 みつ（浜松市老人クラブ連合会 副会長 女性部浜北地区代表）
鈴木 雅教（浜松市ボランティア連絡協議会 会長）
小栗 康義（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 常務理事）
鈴木 幸子（浜松市民生委員児童委員協議会 理事）
小杉山 敬（浜松市社会福祉施設協議会 理事）
藤島 百合子（一般社団法人浜松市医師会 理事）
松本 礼子（公益社団法人静岡県看護協会 西部地区支部役員）
酒井 昌子（聖隷クリストファー大学 教授）
平野 岳子（浜松市議会）
- 事務局（13名）
高齢者福祉課 渡辺次長兼課長 鈴木担当課長 亀田課長補佐
鈴木G長 門屋G長 山根G長 坂本G長 宮崎 高橋
健康医療課 島次長兼課長
介護保険課 徳田課長、大村課長補佐
健康増進課 小山課長
- 4 傍聴者 1名
- 5 議事内容 (1) はままつ友愛の高齢者プラン策定骨子案について
- 6 会議録作成者 高齢者福祉課 生きがい・長寿政策グループ 宮崎
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・ 無

8 会議記録

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

(小杉山会長)

議事の公開非公開について、個人情報などの非公開情報を審議する予定はないので公開としたいが、よろしいか。

(異議なし)

(1) はままつ友愛の高齢者プラン策定骨子(案)について

(小杉山会長)

(1)のはままつ友愛の高齢者プラン策定骨子(案)について、事務局から説明願いたい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

資料に基づき説明

(小杉山会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(小栗委員)

現計画の数値目標の達成度を分析して次期計画に反映してほしい。

ボランティア活動を通して高齢者の社会参加と介護予防意識の向上を図るため、ささえあいポイント事業の拡充は必要。次期計画への記載をお願いしたい。

若年性認知症の方の社会参加活動の支援についても願います。

教育との連携について、小中高生に対して認知症についての理解を求める施策が必要である。人材確保については、これまでのやり方ではなく、若者に介護現場や介護業界の実情を知ってもらい、働く場として選んでもらうための教育が必要である。また、地域特性もあることから地区に特化したやり方も必要である。

人材確保と災害・感染症対策に関して、介護ロボット導入への助成を考えていただきたい。介護従事者の高齢化への対応や負担軽減、現場の生産性の向上、人材不足の解消につながり、3密を避けるためにも有効な対策である。

災害、感染症対策については、介護現場に携わる人たちの感染症に対する基礎的な知識の習得のための研修の実施、また、実際に災害等が発生した場合に備えて、組織の枠を超えた専門職の融通の制度や施設間の応援体制の構築をお願いしたい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

ささえあいポイント事業については現プランにあるような形で入れていきたい。

(鈴木雅教委員)

プランに書けば市全体でやる方向になってしまうが、移動手段がない地域では高齢者が集まれず、通いの場としてのロコモーショントレーニング等をやりたくてもやれないという実態がある。浜松市の平均年齢や高齢者人口を見ても天竜区は完全にずれてしまう。この文章だけで一律にやりましょうとするのではなく、地区

ごとの設定も必要だと思う。

介護サービス等が実際にできているのか、地区ごとの実態や成果を把握する必要がある。高齢者人口だけでなく、世帯人数が異なれば全体の方向性が大きく変わってくるということも考慮すべき。北遠地域ではこのとおりにはいかない。

重点施策5の内容詳細に、ボランティア団体やNPO法人などの多様な主体による…とあるが、ボランティア団体はどこにどんな団体があるのか把握できない。構成員の高齢化によりボランティア団体は減っている。高齢者が高齢者を支えるのではなく、若年層が受け皿となるような施策を考えてほしい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

地区ごとに色々な状況があることは承知しているが、計画の中にすべてを盛り込むことは難しいので、細かい施策の中で対応していきたい。ボランティア団体についても確かに把握できていない状況がある。今後生産年齢人口が落ちていく中で若い人にボランティア活動を担ってもらうのは難しいものがあると思うので、元気な高齢者の方に協力してもらおうという方向性で考えている。

(小杉山会長)

せっかく思いが詰まっている団体なので、ぜひ有効に活用し、次の若い世代の方にも入ってもらえるような仕組みを作っていただければありがたい。

(平野委員)

市の避難所運営マニュアルの中に新型コロナウイルス等の感染症対策を踏まえた運営のあり方が明記された。高齢者が避難した場合には、配慮がより必要になる。そのような細かい部分についてどのように考えているか。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

細かい部分については、計画の中に入れる形ではなく、災害担当課で作成するマニュアルに記載していきたい。福祉避難所の運営については、感染症対策に関する部分を盛り込んでいきたい。

(平野委員)

人材確保の問題について、ICTを現場に取り込んでいくという文言が計画にみられない。助成についても明確に記載した方がよろしいのでは。

(徳田介護保険課長)

介護ロボットやICTについて可能なものは取り入れ補助も実施していきたいが、日々進化している中で、計画に記載することによって縛られるということは避けたい。

(小杉山会長)

それぞれの立場からの貴重なご意見をいただいた。

以上で議事を終了する。

4 連絡事項

5 閉会